

授業科目区分	授業科目名	授業方法	単位	時間	関連の深い授業科目
専門	臨床実習1	実習	2	90	基礎柔道整復学1～4 臨床柔道整復学1～4 柔道整復実技1～5
学科・学年	担当教員名	科目関連実務経歴	実務経歴・分野・授業科目との関連等		
2年	錦織輝礼・小澤健史・太田直樹・小澤恵美・井口満広・南沢 悟	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	附属臨床施設鍼灸(接骨)外来担当での実務から、臨床の場面での疾患鑑別に必要な知識を学びます。		
授 業 目 標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示					
<p>卒業後の接骨院での業務に入る際の基本的事項を身に付ける。            身なり・言葉づかい・施設の使用法・受付業務、患者対応を指示されなくても実行できるようにする。            その後、評価・治療ほなど具体的な柔道整復術の活用方法を考案できるようにする。            また以下の2項目での外部臨床実習を行う。            ①スポーツ現場(柔道救護活動)の活動の補助・見学(骨折・脱臼などの新鮮外傷を観察・評価を体験する。)            ②学外臨床実習(臨床実習指導者のいる、学外の接骨院にて研修を行い、臨床現場を体験する。)</p>					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>実務家教員により、接骨院・整形外科等での臨床経験を活かし、患者対応から柔道整復術の適応方法までを伝授する。            特に、臨床(附属)において発生する実際の外傷についての、評価法・治療法について、実際の処置の仕方を各外傷ごと詳細に学ぶ。また、スポーツ現場や機能訓練指導の場を、見学や補助を通して体験する。</p>					
教科書・参考書					
柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編					
受講時留意点、その他					
<p>【 全科目受講時共通事項 】※詳細は学生便覧受講における遵守事項参照            ●病気その他止むを得ない事由以外での欠席はしないこと。            ●授業開始5分前には所定教室で待機し、指定された席で授業を受講すること。            ●授業中は私語、および授業内容に関係のない行為は自粛すること。            ●授業中の電子機器の使用は禁止する。但し、担当教員から許可を得た場合はこの限りではない。            ●当番は授業前後の準備、整理を行うこと。教室、実習室の整理整頓、採光、換気、節電に努めること。            ※注意            授業開始時間後の入室は職員室にて「授業開始後入室における聴講申請書」を記入し、記入した用紙を担当講師に手渡して下さい。            授業の聴講は許可しますが、出席簿は「欠席」扱いとなります。(公共交通機関遅延により遅延証明書がある場合のみ出席とみなします)。</p> <p>【 受講科目受講時留意点 】            ●身なりの確認は厳重に行う。(白衣の清掃、名札、髪の毛など)            ●授業資料が配られた場合、ファイリングする。            ●レポート課題が提出されることがあるが、期日を守る。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	80	レポート課題(臨床実習において、授業後にレポート作成させ評価する。)			
その他	20	出席率・授業態度・身なりを20点分として換算する。			
(合計)	100				

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
1	5/20	2年生臨床実習について レポートの書き方		/	錦織
2	5/29	昨年度・臨床実習活動報告 外部臨床実習・柔道の救護活動につ いての活動概要を知る。		/	錦織
3	6/3	問診の取り方、記入①		/	錦織
4	6/10	問診の取り方、記入②		/	錦織
5	6/17	アイシングについて①		/	錦織
6	6/24	アイシングについて②		/	
7	7/1	救護活動に必要な簡易固定① 軟性の固定具を使った固定を体験する。		/	
8	7/8	救護活動に必要な簡易固定② 硬性の固定具を使った固定を体験する。		/	
9	7/15	救護活動に必要な徒手検査①		/	
10	7/22	救護活動に必要な徒手検査②		/	

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
11	7/29	徒手筋力検査 【学習ポイント】 質的スコアと判定方法を覚える。		/	
12	8/5	徒手筋力検査 【学習ポイント】 患者の肢位や代償動作を考慮し、 検査を行う。		/	
13	9/9	評価 【学習ポイント】 関節可動域訓練と徒手筋力検査を用いた 評価を実践する。		/	
14	9/16	評価 【学習ポイント】 考えられるリスク管理を行い、 検査を実施する。		/	
15	9/30	説明と同意 患者に対しての説明と同意ができる。		/	
16	10/7	柔道整復術の活用方法① 損傷の診察 患者の姿勢、歩行、全身状態を観察し、 施術へつなげる情報を得る。		/	
17	10/14	柔道整復術の活用方法② 損傷の診察 患部だけでなく患部全体を観察し、 疾病状態を把握する。		/	
18	10/21	柔道整復術の活用方法③ 触診 腫脹や熱感、感覚異常など、患部の 異常を触知する。		/	
19	10/28	柔道整復術の活用方法③ 触診 腫脹や熱感、感覚異常など、患部の 異常を触知する。		/	
20	11/4	スポーツ活動現場の見学・実習① (柔道の救護活動)		/	

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
21	11/11	スポーツ活動現場の見学・実習② (柔道の救護活動)		/	
22	11/18	スポーツ活動現場の見学・実習③ (柔道の救護活動)		/	
23	11/25	スポーツ活動現場の見学・実習④ (柔道の救護活動)		/	
24	12/2	スポーツ活動現場の見学・実習⑤ (柔道の救護活動)		/	
25	12/9	スポーツ活動現場の見学・実習⑥ (柔道の救護活動)		/	
26	特別授 業日	スポーツ活動現場の見学・実習⑦ (柔道の救護活動)		/	
27	特別授 業日	スポーツ活動現場の見学・実習⑧ (柔道の救護活動)		/	
28	特別授 業日	スポーツ活動現場の見学・実習⑨ (柔道の救護活動)		/	
29	特別授 業日	スポーツ活動現場の見学・実習⑩ (柔道の救護活動)		/	
30	特別授 業日	スポーツ活動現場の見学・実習⑪ (柔道の救護活動)		/	

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
31	特別授 業日	スポーツ活動現場の見学・実習⑫ (柔道の救護活動)		/	
32	特別授 業日	スポーツ活動現場の見学・実習⑬ (柔道の救護活動)		/	
33	特別授 業日	スポーツ活動現場の見学・実習⑭ (柔道の救護活動)		/	
34	特別授 業日	スポーツ活動現場の見学・実習⑮ (柔道の救護活動)		/	
35	特別授 業日	スポーツ活動現場の見学・実習⑯ (柔道の救護活動)		/	
36	特別授 業日	学外臨床実習① (1日目)		/	
37	特別授 業日	学外臨床実習② (1日目)		/	
38	特別授 業日	学外臨床実習③ (1日目)		/	
39	特別授 業日	学外臨床実習④ (1日目)		/	
40	特別授 業日	学外臨床実習⑤ (1日目)		/	

